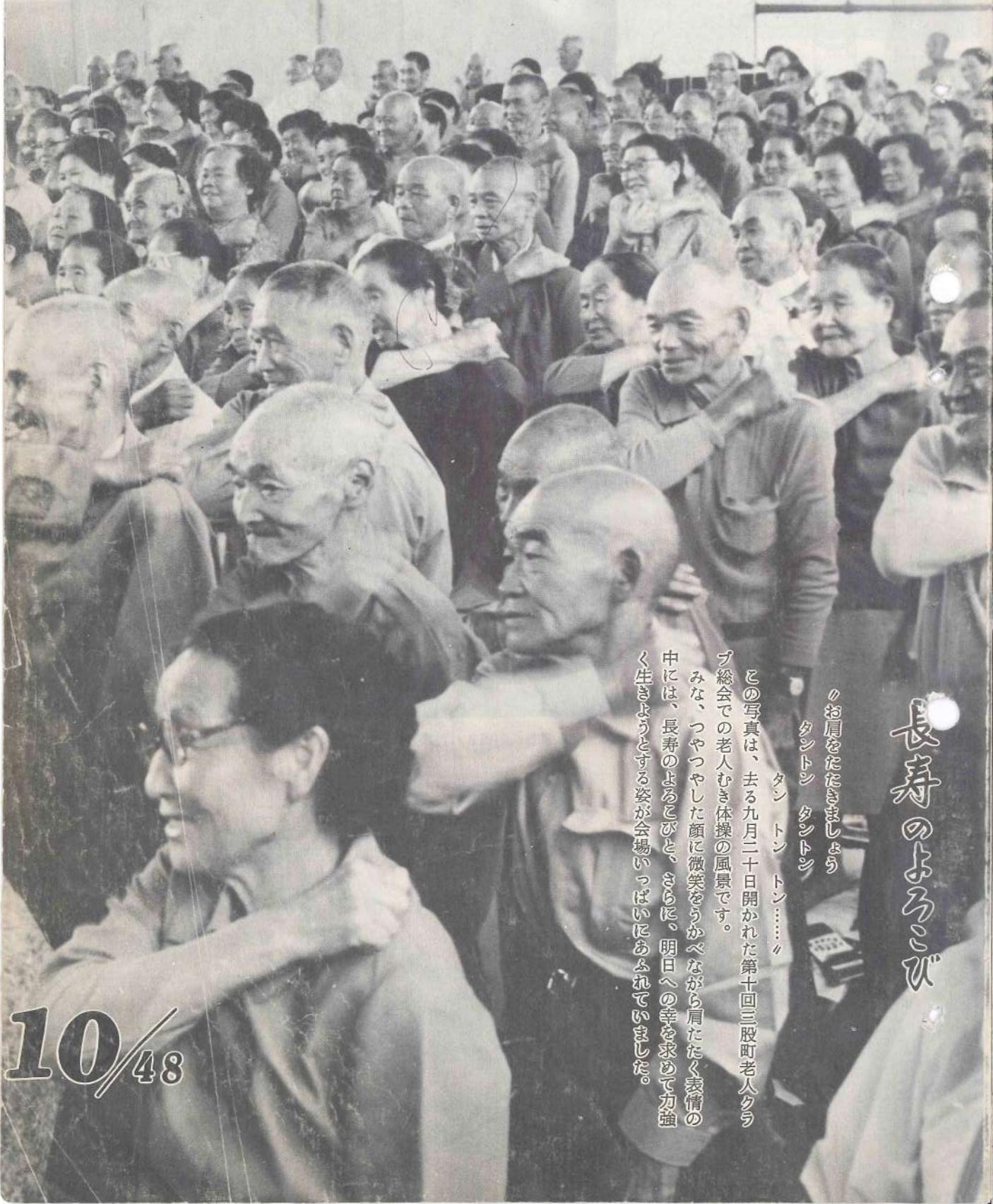


広報みまた



長寿のよろこび

「お肩をたたきましょう

タントン タントン

タン トン トン……」

この写真は、去る九月二十日開かれた第十回三股町老人クラブ総会での老人むき体操の風景です。みんな、つやつやした顔に微笑をうかべながら肩たたく表情の中には、長寿のよろこびと、さらに、明日への幸を求めて力強く生きようとする姿が会場いっぱいにあふれていきました。

10/48



▲ 9月27日町議会定例会で施政方針を述べる田中町長



▲ 各種会合にもくまなく出席 町民との対話をモットーに



▲ 90才を迎えた家庭を激励のため訪問

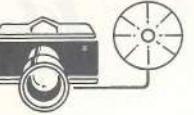


▲ あすをきく人づくり運動
実践会議で熱心に協議をすまもる町長

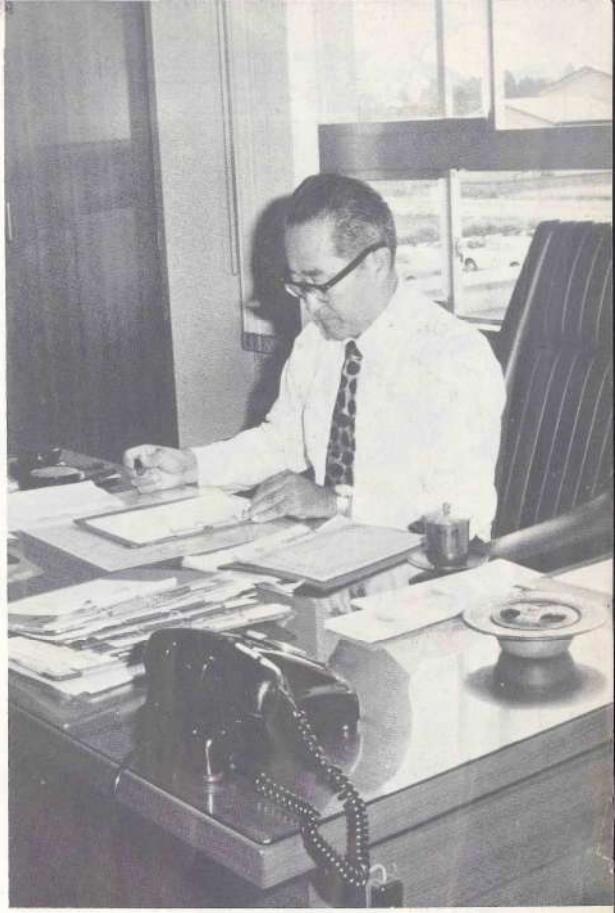


結婚第一号……新しい門出を祝福する町長

カメラ・ルポ



田中町政スタート
対話のある
町政をめざして



▲毎日、山積された書類一つ一つに……丹念に目を通すのも日課の一つ



9月8日当選して初登庁……職員の暖かい歓迎を受ける



より明るい より豊かな

福祉社会の建設へ.....

→ 対話のある町政をすすめる

九月八日初登場された田中新總（五七）新町長は、「時代はあらゆる分野で新しいものをもとめている。これからばよの高い次元に立つて住民との対話をすすめ、時代に適合する町づくりに努めたい」と、町政への意欲とエネルギッシュな毎日を過ごされています。

一方、大河内利雄前町長は連続五期二十年の間、被災後を通過して洪水の多かった沖水川の河川改修に努め、なお、県内でも他町村に先がけて都市計画、農業構造改善事業、道路の改良鋪装事業など、長期計画に基づくあらゆる事業の実績は高く評価されているところです。

九月七日任期満了に伴い、木田三郎助役、桑畑健雄収入役も、それぞれ同日付け辞任、職員に別れの言葉を述べられました。

以下、次の「施政方針」は、九月二十七日から開かれた第十回町議会定例会で述べられた田中新町長の「施政方針」全文です。

施政方針

本日ここに、九月定例町議会が開かれるに当りまして、所信の一端を申上げます機会を得ましたことは私の生涯を通じまして最も快とするところでありますとともに、至上の感激を覚ゆるものでございます。

本市四十八年度の施政につきましては、さる三月町議会におきましては、通じての財政運用の計画が議決されているところでござい

ます。

施政方針及び財政運用計画のな

かには、流動せる社会、経済の情

勢をよく察知され一貫して町民の

生活環境の整備、経済開発の推

進が企画されておりますことは極

めて當を得たものであり、その周

も自身過剰は禁物、早目に検査を

することになりました。

病気は、常に早発見・早期治

療が鉄則です。

現在、健常と思っているあなた

も自身過剰は禁物、早目に検査を

することになりました。

成人病検査（人間ドック）を実施



秋の全国交通安全運動

—<好成績をあげたこどもと老人>—

9月21日から30日まで10日間実施された秋の全国交通安全運動は歩行者、とくに幼児・こども・老人を重点に、その推進策としてスクール・ゾーンの整備充実・交通安全教育の充実強化をはかり、さらに、各種団体役員総出の街頭指導で実をあげて、歩行者・こども・老人は交通事故ゼロの好成績をあげました。

しかしながら、運転者の方は依然として事故の恐きを、ひみ

ない違反者が多く、期間中だけでも酒酔運転違反1件、酒気帯び

2件、設備不良6件、信号無視2件、追越し2件、駐車違反25件

三股支部外の違反18件も出ています。

交通安全協会三股支部では、この期間内の結果を参考にこれら

の車の増加と、さらに多発する年末への事故防止に備えて、交

通安全思想の周知徹底を図り、正しい交通ルールの実践を習慣づけさせて交通事故防止の徹底をはかることにしています。



結婚第1号は時任さん

—<新装なった町立公民館で挙式>—

去る7月、町民のいろいろな会合や催しの場として庁舎西側に移転新築された中央公民館は、開館と同時に順調な滑り出しをみて行事をギッシリ。

それに加えて、福徳が色づき、刈り入れがはじまる頃になると若いカップルのシーズンでもあり、町内あちこちで楽し「音」をよく耳にします。

お蔭様で中央公民館も、豪華な結婚式が挙げられると予約が殺到、特に10月の大安吉日は初日から予約一杯。

9月19日、ひと足先に新装なった公民館第1号の幸運を射止めた上米・時任和義さん(26)と鹿児島県末吉町の福留さん(22)は、真新しい2階式場で両家の家族や親族に祝福されて満足そう。田中町民も「幸福な家庭を築いて下さい」と、晴れの門出を祝い、2人は披露宴の後、新婚旅行へと旅立ちました。



第10回 三股町老人クラブ

連絡協議会総会

三股町老人クラブ総会が9月20日町体育館で開かれました。会場は、つやつやした老人でいっぱい。総会は今村重幸会長の元気なあいさつにはじまり、表彰状、感謝状の贈呈、年間会計報告の承認などがあり、会は順調に進められました。

続いて、老人にとって一番大切な講話があり、老人病への警と老人の交通安全について、講師の話に熱心に耳を傾け、なお、餅原老人クラブ・鶴田会長の意見発表がなされて総会は、終始若い人におとらぬ盛大な祭典でした。9月現在三股町の老人の数は、右の通りです。

年令	男	女
65~69才	265人	292人
70~79	296	382
80~89	89	149
90~99	6	11
合計	656	834



スポーツには

家族そろって参加しましょう

今年も9月15日敬老の日を皮切りに、部落の運動会をはじめ、保育所、小、中学校の運動会が各地で盛大に行なわれました。どの部落でも特に目立ったのが「あすをきずく人づくり運動推進」の一環として、こどもから老人にいたる部落民総ぐるみの楽しい運動会。

種目も全員参加を対象に、役員の周到な計画のもとに、手の手この手、手奸をこらして、観客を存分に楽しませてくれました。一方、保育所、学校にあつては先生の日頃の教育指導の成果によりスマーズな遊びをみせ、中でも父兄の積極的な協力が目立つて、こどもや老人へのサービスは満点。

よいよ10月10日体育の日、町民総ぐるみスポーツの祭典。こそぞて体力増強につとめましょう。

—<写真はみまた幼稚園運動会風景>—

清掃のたのしみ

—<田上・白菊会>—

暑い日が続くと、とかく気がゆみがちで、それにつけて、いたるところに勢いよく繁茂するのが雑草です。

ところが、田上老人クラブ「白菊会」・仮屋義光会長、47人では、自らの手で計画し、実行している児童の「じゃりっこ会」と一緒にになって部落の美化につとめ、みんなによろこばれています。

白菊会は平均年令70才で、部落のために何か役立つ仕事をしたいと以前から続いている公民館・納骨堂の清掃は、としょりによつて、上き運動であり、また、孫たち「じゃりっこ会」と一緒に汗をながしながら、対話をでき一番あわせですと、みな、顔々に微笑を浮かべながらはりきっていました。

としょりの手で、立派に守られている施設は、訪れる人々によく印象をあたえ、これからもズート管理されていくことでしょう。



地域住民の生活向上をめざして

真剣に取組む公民館連協

去る9月12日三股町公民館連絡協議会が開かれました。

時間厳守、14時キッチャリ真新しい公民館小会議室で開かれた協議会は、協議事項も月1回の定例会とあってギッシリ、地域住民の生活向上をめざして終始真剣な話し合いがなされました。

この日、協議された主な内容は、防犯連絡所の設置・飲酒・無免許運転撲滅のほか、愛の献血への協力・人づくり運動の今後の取り組み方・町民体育大会など。そのほか各地区からこれからの住民生活に直接関係するいろいろな要望事項などが多く出され、公民館リーダーの集いにふさわしい活気があふれていました。



消防機動力の充実をはかる

—<消防自動車4台を購入>—

消防は人災天災を問わず不測の災禍に備えて、常に機敏な動作が要求されています。

現在、本町には清永邦雄團長以下147人、町本部に指揮車1台、水をうつポンプ1台、消防車1台のほか各部に小型活動ポンプ13台を備えて、日頃、忙しい勤労のかたわら、しかも人知れぬ苦労の多い中にありますから、住民の生命財産を災害から守り続けていこう・町民ひとりひとり認めているところがあります。

年々産業経済の高度成長をもたらし、これに並行してさらに安心してしていくことは必至であります。町ではこうした恐るべき災害を未然に防止し、盤石の消防態勢を堅持するためには、第2部(津川) 第5部(長田) 第6部(夢池) 第7部(下新)に、それぞれ小型活動ポンプ付自動車を配置、消防機動力の充実をはかりました。残る第1、2、3、4部も逐次配置して住民の安心できる消防の強化をはかることにしています。



傘を自由に使って下さい

東原老人クラブ「これから会」

「傘を自由に使って下さい…」と、東原老人クラブ「これから会」丸田利吉会長・55人では、長年の念願であった傘を、それぞれ我が家から持た寄って「東都駅前」に備え付け利用願っています。

この発想は、会を開くたびに若い青春時代の想い出に花を咲かせ、これからもさらにも元気で社会のために何か役立つことをしたいと、これまで話がはずむ中で…(駅近くに住んでいて、いつも心残していたのか)

雨の土砂降りする中を、汽車から降りてハンカチや風呂敷をかぶり一目散にわが家へ急ぐ学生や一般客のびしょ濡れした姿…。会員の懇親の話は、とんとん拍子に決って早速実行、めいめい色とりどりの傘が準備されて、今では不意の雨にも戸惑う客も大変ようこばれています。



信 樂 燒 を 尋 ね て

三股中中馬純男

伊賀の忍者が走りまわった白土山の谷間に信楽の里があります。ガマと大きな狸が客を招きます。もちろん焼き物の話です。

いまからおよそ1,200年もむかし聖武天皇がこの地に「紫香
楽宮」をおたてになり、その宮殿の瓦を焼き始めたのが、そ
もそものははじまりだそうです。その後、鎌倉の中頃に至って、
宋（中国）の陶器のしげきをうけて、穴窯による水がめや種
つばなどの自然の灰をかぶせた素朴な味をもつものがつくられ
るようになったようです。更に、室町時代から豊臣時代の
茶道がさかんになるにつれて「利休しがらき」と呼ばれる程
の名器が出たのだそうです。



散在する窯場の中で「古信楽」の伝統をうけついでさらに生き続けているのが無形文化財指定の高橋樂斎翁その人でした。一見して平凡なご老人でした。波に淀む木の葉を感じさせる人でした。

「伊賀信楽」は古来より七度焼ともいわれ、数度の窯出し、窯入をし、その都度、焼く場所、焼く面をおきかえる繁雑な仕事をくりかえすのだそうです。自分の足で土を探し、ねり、それを1年も2年もねかせてから使う。窯の中の置にはとくに細心の注意をはらい、灰がよく降りかかり、炎がよくまわるようにする。薪一つでも若松、老松、雜木だのいろいろ取り合せた上で1,350度の高温で長い時間焼くのだそうです。窯のはぼりガマでした。ちょうど陶器大系の全集本を作るというので、作品の紹介や前がき依頼のためか文屋さんが来ておられるところでしたので一緒に見せてもらいました。無造作に置かれてある古文書ものぞかせてもらいました。

土と火と水の芸術に生きる人間に出会って本当によかったと思っています。

サラリーマンの本田さんは、長年の夢がかない、あとひと月もするとマイホームを手に入れる事ができるようになりました。本田さんはもちろん、奥さんや子どもさんが喜んだのはいうまでもありません。

そうしたある日、「家を建てる」と、税金が返ってくることがあるんですってよ」と、奥さんが耳よりなはなしを聞いてきました。そこで、さっそく税務署に問い合わせてみると、係員は次のように説明してくれました。

「家を新築したり、建売住宅などを買った場合は、床面積一坪につき一、〇〇〇円を所得税額から差し引くことができます。これをク所得税の住宅取得控除といいます。つまり、昭和四十七年から五十年末までの間に、床面積一二〇平方メートル以下の家を新築したり、建売住宅を買った場合は、一坪につき一、〇〇〇円、最高二万円までを所得税から差し引くことができます。そのため手続きとしては、既に源泉徴収されているサラリーマンの方ですと、三月に必要な書類をそえて確定申告をしていただくことが必要です。すでに納付済みの税金から控除相当額を向う三年間お返しすることになります。

マイホームと税金

また、昭和四十三年から昭和四十九年末までに銀行や住宅金融公庫等との「住宅貯蓄契約」あるいは「財形貯蓄」により積立てなどをした場合には、ある一定の計算により一年間に最高二万円、または三万円までと所得税から差し引くことができます。

ところで、共かせぎのご夫婦が資金を出し合って住宅をつくることがあります。このときに不動産登記の名義をご主人または奥さんなどどちらか一人の名義にしますと妻から夫、あるいは夫から妻に資金を贈与したということで贈与税の問題がからんできます。そこで、このような場合は、夫の持分と妻の持分を資金に応じて決め、「共有の登記」をされますと贈与税の心配はいりません。

三股町の人口

9月1日現在

男	7,442人	+ 19人
女	8,237	+ 25
計	15,679	+ 44
世帯数	4,611戸	+ 5